

# GIGAスクール構想 授業実践 ICTを活用した主体的・対話的で深い学び

## 埼玉県春日部市武里西小学校 2021年 & 2022年

と-d@net 東武ぶみりウェブ版

トップニュース

“端末”で遠隔授業を体験・武里西小、大阪の講師と教室結ぶ  
2021. 3. 1 (春日部市)



文部科学省は、小中学校の児童生徒全員に端末（パソコン、タブレット）を配布し、高速大容量の通信ネットワークを整備する「GIGAスクール構想」を推進するが、春日部市立武里西小学校（同市大塚、現瑞穂台校区、児童539人）の6年1組の児童が、2月12日、ひと足早く、「GIGAスクール」授業を体験した。特別講師は大阪神学女子大学学芸学部の特任講師（61）。授業のテーマはスマホの無料通話アプリ「LINE（ライン）」を使ったいじめ、児童らは配布されたタブレットでアンケートに答えるなど、タブレットによるオンライン授業を体験した。

「GIGAスクール構想」は、児童生徒への端末と通信ネットワークを一体的に整備する事業。多様な子どもたちを一人も取り残さず、主体的に学べるように授業を改善するのが目的。2023年までに環境を整備する計画だったが、コロナ禍の休校などにより、オンライン授業が注目され、前倒して20年度中を目指した整備が急ピッチで進められている。

同日の武里西小の授業は、この「GIGAスクール」の“モデル授業”。6年1組34人の教室で、今田教授の同大（大阪府大阪市）をオンラインで結び、「LINE」を使ったいじめについて授業が進められた。今田教授は文科省のICT（情報通信技術）活用教育アドバイザー委員。

教室の奥壁の前には大型モニターが設置され、大阪から今田教授があいさつした後、ネットのいじめの特徴として、「ネットのグループのメンバー（中）に入れない」「ネットに悪口を書き込む」「見られたくない写真や動画を公開する」——などと説明した。

「特定の子を仲間はずれにする」ことに同意を求められたら、どう答えるかについて児童全員が考え、それぞれワークシートに「答え」を書いた。答えは「あの人にもいいところがある」や「何とも思わない」「どうでもいいや」などさまざま。

また、4人に1台配布されたタブレット端末を使ってアンケートも行われ、「いじめを見たらだれに報告するか」について回答。その結果、「担任の先生」33%、「お母さん」19%など瞬時に集計されて、児童は「早い！」と驚きの声を上げた。

この授業で今田教授は「いじめの傍観者ではなく、複数の大人に報告する通報者になって」と呼びかけ、担任の市河大樹教諭（36）は「手がスマホを持つことにもなって、正しく利用して」と強調した。

山口晴彰教諭（12）は「いじめはすぐに通報する人に相談することが大事」と言い、空遊線（しびほうたつ・ゆかり）さん（12）は「SNSで悪口を書かれた時は、場の空気を変える発言や話題が解決方法になることがわかった」と話していた。

今田教授は「授業では講師と担任教師との連携に留意した。GIGAスクール構想は、単なるコロナ対策ではない。ネットの活用を含めて、生涯学び続けるための基盤づくりに利用していきたい」と話していた。

同日は特別授業の後、同校教師対象の「ICT活用研修会」も行われ、今田教授とGIGAスクールについて講演を交わした。

戻る



### 今田晃一・村山大樹

東武ぶみり  
2022年（令和4年）3月7日（月曜日）（2）



春日部市立武里西小学校「生たちが、ネットいじめの子仲間を呼びよせ、仲間はずれにする」ことについて、タブレット端末を使ってアンケートを行った。その結果、「担任の先生」33%、「お母さん」19%など瞬時に集計されて、児童は「早い！」と驚きの声を上げた。

この授業で今田教授は「いじめの傍観者ではなく、複数の大人に報告する通報者になって」と呼びかけ、担任の市河大樹教諭（36）は「手がスマホを持つことにもなって、正しく利用して」と強調した。

山口晴彰教諭（12）は「いじめはすぐに通報する人に相談することが大事」と言い、空遊線（しびほうたつ・ゆかり）さん（12）は「SNSで悪口を書かれた時は、場の空気を変える発言や話題が解決方法になることがわかった」と話していた。

今田教授は「授業では講師と担任教師との連携に留意した。GIGAスクール構想は、単なるコロナ対策ではない。ネットの活用を含めて、生涯学び続けるための基盤づくりに利用していきたい」と話していた。

同日は特別授業の後、同校教師対象の「ICT活用研修会」も行われ、今田教授とGIGAスクールについて講演を交わした。

戻る

#### 「ネットいじめ」を考える

春日部市立武里西小学校「生たちが、ネットいじめの子仲間を呼びよせ、仲間はずれにする」ことについて、タブレット端末を使ってアンケートを行った。その結果、「担任の先生」33%、「お母さん」19%など瞬時に集計されて、児童は「早い！」と驚きの声を上げた。

この授業で今田教授は「いじめの傍観者ではなく、複数の大人に報告する通報者になって」と呼びかけ、担任の市河大樹教諭（36）は「手がスマホを持つことにもなって、正しく利用して」と強調した。

山口晴彰教諭（12）は「いじめはすぐに通報する人に相談することが大事」と言い、空遊線（しびほうたつ・ゆかり）さん（12）は「SNSで悪口を書かれた時は、場の空気を変える発言や話題が解決方法になることがわかった」と話していた。

今田教授は「授業では講師と担任教師との連携に留意した。GIGAスクール構想は、単なるコロナ対策ではない。ネットの活用を含めて、生涯学び続けるための基盤づくりに利用していきたい」と話していた。

同日は特別授業の後、同校教師対象の「ICT活用研修会」も行われ、今田教授とGIGAスクールについて講演を交わした。

戻る

# 6年生「総合的な学習の時間」全4時間 「いじめ、ネットいじめ防止についてできること」

- ①いじめ、ネットいじめ防止について大切だと思うことを自分なりにまとめる（学習の個性化）自由度大
- ②ゲストティーチャーによる特別授業（対面・遠隔授業融合）
- ③スイッチャーとしての書き込みの検討（協働的な学び）
  - ②のスイッチャーとしての書き込みについての対話  
**村上春樹『沈黙』**についての意見交換
- ④学習履歴（スタディ・ログ）の活用
  - ①～③の振り返りシート（R80）による自身の意見のまとめ

# ① いじめ、ネットいじめについて調べる

- NHK for School 「スマホ・リアルストーリー」を視聴
- 文部科学省 「令和3年度全国いじめ問題子供サミット（オンライン開催）」を視聴
- 「人権作文コンクール」入選作品を検討 など

○問題解決学習の方法知を習得

○注意ではなく、手本となる児童をほめる

○フィールドバックは即時対応（俯瞰と個別）

学習の個性化 自由度最大



## ② ゲストティーチャーによる特別授業

- 「NHK for School」の教材の工夫（俯瞰の視点）
- 「Mentimeter」によるあえて残さない学習履歴
- 授業者がファシリテーターの立場の経験
- 学びを見守りつつも、教える行為を放棄しない



対面・遠隔授業の融合

### ③ 前時スィッチャーとしての書き込み、村上春樹『沈黙』の読み込み、協議

大学の先生がこれからは書き込みだけでまわりをよくするような人が魅力的だと言っていた。

また、沈黙を読んで傍観者が一番こわいものだという事も分かった。私は通報者として役に立ちたいと思う。

A・K

協働的な学び



# ④振り返りシートによるまとめ（週末の5分）

## 単元「いじめ、ネットいじめ防止」 R80記録

1	いじめ、ネットいじめ防止に関する調べ学習	2	ゲストティーチャー	3	スイッチャー書き込み「沈黙」の意見交換
	<p>人権作文に入賞した人は自分の個人的な出来事から考えていることがわかった。</p> <p>特にいじめについては、自分はいじめないではなく、自分にもできることを考えないといけないと思った。</p>	<p>いじめを防止するために通報者という役割があることを知って勇気もてた。</p> <p>なぜなら自分は今までいじめのような場面でも見るのがいやだったけど実際には何もできなかったからだ。</p>	<p>大学の先生がこれからは書き込みだけでまわりをよくするような人が魅力的な人だと言っていた。</p> <p>また、沈黙を読んで傍観者が一番こわいものだということが分った。私は通報者として人の役に立ちたいと思う。</p>		